

主題 進んで読みの力を身につける子供を育てる第1学年国語科学習指導

副主題 言葉を吟味する活動を通して

うきは市立大石小学校
教諭 佐々木 和

こんな手立てによって…

こんな成果があった！

言葉を動作化、連想、置き換え、比較、動画や写真の提示といった操作活動を、内容を把握する「つかむ段階」と内容を解釈する「深める段階」に位置づけ、言葉をとらえたり問い直したりすることによって

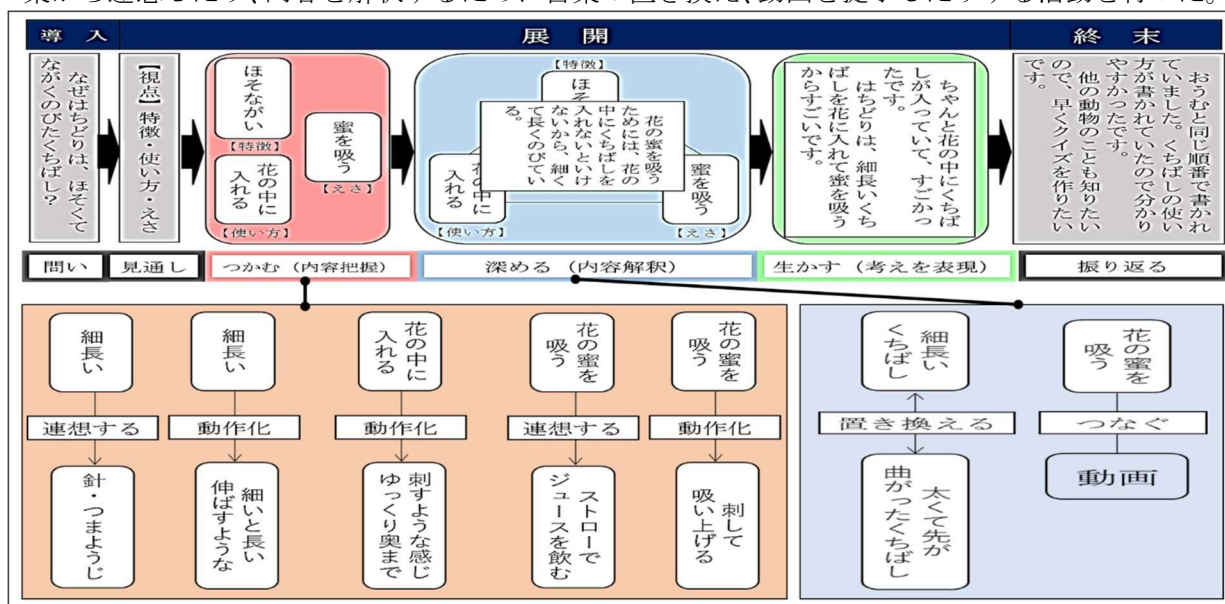
自分で読みの問いをもち、見通しを立てて構造や内容を把握したり解釈したりして考えを表現する、進んで読みの力を身につける1年生の子供が育った。

1 考えた

本研究でめざす子供は、進んで読みの力を身につける子供である。児童の実態から、言葉の意味や文章の構造、内容の理解ができておらず、まとまりとして文を見ていないことや文字を書いて表現する習慣がないことが明らかになった。そこで、本研究では、進んで読みの力を身につけるようにするために、言葉をとらえたり問い直したりする活動を1時間の学習過程の「つかむ段階」と「深める段階」に位置づける。そして、授業づくりにあたっては、①「表現」をゴールとした単元構成、②自分の力に合わせて選択できる学習ノートの工夫、③構造と内容を把握したり解釈したりするための「発問」の工夫をすることを中心に考えてみた。

2 やってみた

例えば、実践1「くちばし」（説明的な文章）では、内容を把握するために言葉を動作化、言葉から連想したり、内容を解釈するために言葉の置き換え、動画を提示したりする活動を行った。



3 成果があった！

内容を把握する「つかむ段階」と内容を解釈する「深める段階」に言葉をとらえたり問い直したりする活動を位置づけることで、子供が自分で読みの問いをもち、見通しを立てて構造や内容を把握、解釈して考えを表現する、進んで読みの力を身につけることができるようになった。

<目次>

主題 進んで読みの力を身につける子供を育てる第1学年国語科学習指導

副主題 言葉を吟味する活動を通して

1	主題設定の理由	3
	(1) 国語科で求められているもの	3
	(2) これまでの指導の反省から	3
2	主題の意味	4
	(1) 「読みの力とは」	4
	(2) 「進んで読みの力を身につける」とは	5
	(3) 「進んで読みの力を身につける子供」とは	6
3	副主題の意味	7
	(1) 「言葉を吟味する」とは	7
	(2) 「言葉を吟味する活動」とは	8
4	研究の目標	9
5	研究の仮説	9
6	研究の内容	9
	(1) 表現をゴールとした単元構成の工夫	8
	(2) 自分の力に合わせて選択できる学習ノート工夫	10
	(3) 構造と内容を把握したり解釈したりするための発問の工夫	10
7	全体構想図	11
8	研究の実際	10
	(1) 実践事例1 説明的な文章「くちばし」	11
	(2) 実践事例2 文学的な文章「おおきなかぶ」	14
	(3) 実践事例3 文学的な文章「おむすびころりん」	17
7	成果と課題	21
	(1) 研究の成果	22
	(2) 研究の具体的な構想の有効性について	23
	(3) 課題	25
	<参考文献>	25

主題 進んで読みの力を身につける子供を育てる第1学年国語科学習指導

副主題 言葉を吟味する活動を通して

うきは市立 大石小学校

教諭 佐々木 和

1 主題設定の理由

(1) 国語科で求められているものから

学習指導要領解説国語編「国語科の改定の趣旨及び要点」では、中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されている。意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深めることが大切である。また、「情報の扱い方に関する指導の改善・充実」において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の間関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。これらから、話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりする力を育てることが必要であると考え、本主題を設定した。取り出した情報から内容を把握し、情報を関係付けて言葉をとらえなおして自分の考えを表現することを大切にする本研究は、大変意義深い。

(2) 児童の実態とこれまでの指導の反省から

5月に1年生15名を対象として、国語に関するアンケートを取った。結果は、資料1に示す通りである。この結果をもとに追跡調査をし、国語が好きではない理由を聞いたところ、次のような理由が挙げられた。

【どうして国語が好きではないのですか。】

- ・何が書いてあるか分からない。
- ・言葉の意味が分からない。
- ・文字を書くのが難しい。
- ・読むのが大変。
- ・話を聞いているだけで面白くない。

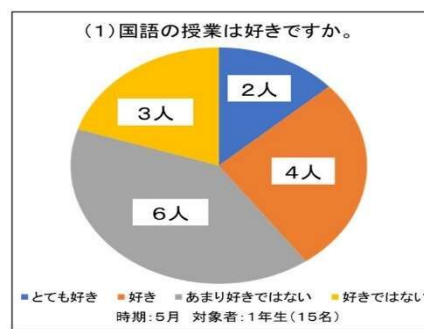
このアンケート結果から課題として、次のことが挙げられる。

- 言葉の理解が曖昧である。
- 文章の構造や内容の理解ができておらず、まとまりとして文を見ていない。
- 文字を書く習慣がない。

そこで、次のことが大切であるといえる。

- 言葉と意味とイメージをつなぐこと。
- 文章に何がどのように書いてあるか、まとまりとして文をとらえること。
- 文字を書く習慣を身に付けること。

本研究では、進んで読みの力を身につける子供を育てるために、言葉をとらえたり問い



【資料1 子供にとってのアンケート結果】

直したりすることを大切に、副主題「言葉を吟味する活動を通して」を設定し、授業改善に取り組んできた。

2 主題の意味

(1) 「読みの力」とは

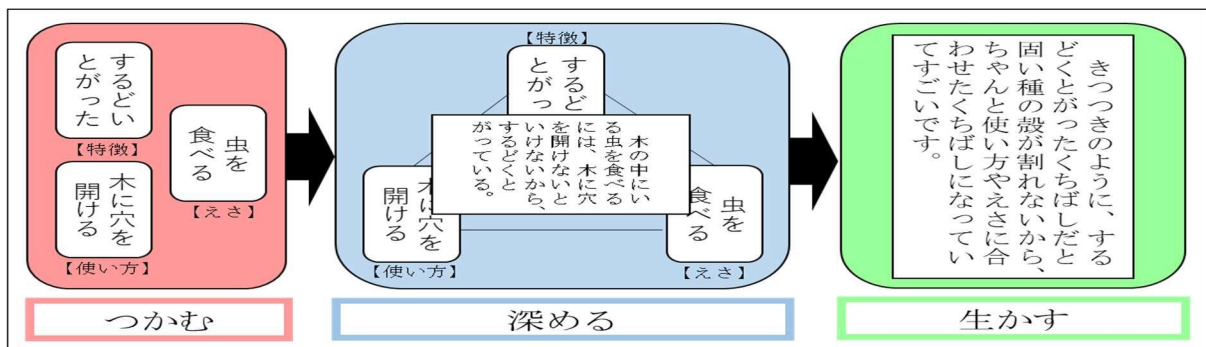
読みの力とは、説明的な文章や文学的な文章を読んだり他者と交流したりすることを通して、つかむ・深める・生かすを繰り返しながら正確に理解し、適切に表現する力である。

読みの力は、「つかむ」「深める」「生かす」の3つの段階でとらえている。「つかむ」とは、必要な情報を取り出し、叙述に基づいて文章がどのような構造になっているか、どのような内容が書かれているかを把握することである。「深める」とは、取り出した情報（言葉や文、文章）を関係付け、目的に応じて自分の考えをつくったり書かれていること、書かれていないことについて具体的に想像したりして、文章の内容や形式を解釈することである。「生かす」とは、解釈したことをもとに、自分の既有的知識や様々な体験と結びつけて感想を持つたり考えをまとめたりして交流することである。

つかむ	【構造や内容を把握する】 <ul style="list-style-type: none"> ・何がどのように書かれているか、誰がどうしてどうなったのか考える。 ・読みの視点を明らかにして必要な情報を取り出す。
深める	【精査・解釈をする】 <ul style="list-style-type: none"> ・語や文、文章をとらえなおして、分かったことをまとめる。 ・シンキングツールを使って情報を関係付ける。
生かす	【考えの形成・共有をする】 <ul style="list-style-type: none"> ・解釈したことをもとに自分の考えや感想をまとめて伝え合う。 ・ノートに書いたりペアで話したりする。

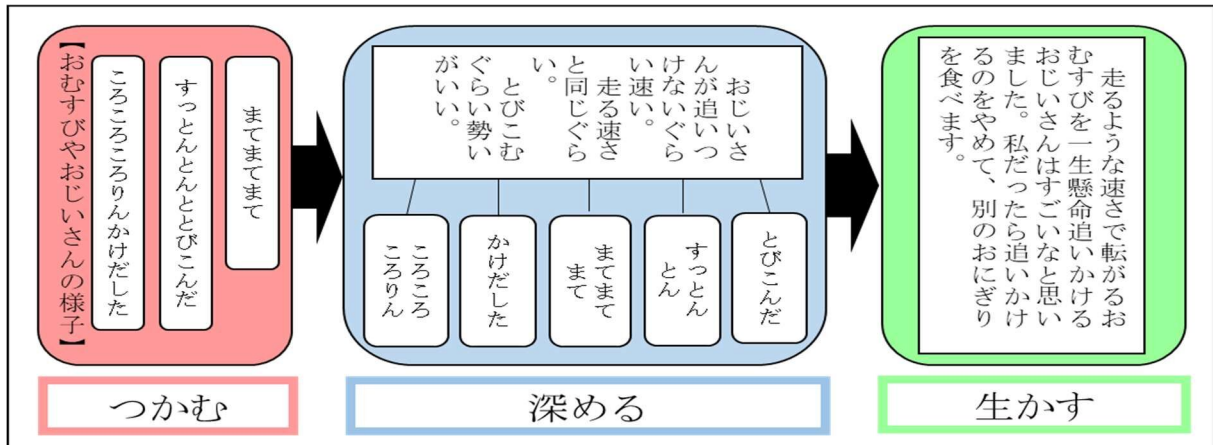
【 表1 「読みの力」とは 】

このことを第1学年の説明文「くちばし」と物語文「おむすびころりん」を例に説明する。説明的な文章の場合を説明する。まず、「きつつきは、なぜするどくどがったくちばしなのか」の問いを解決するのに必要な情報「木に穴を開ける」「木の中にいる虫を食べる」を取り出し、何がどのような順序で書かれているのか内容を把握する。次に、「くちばしの特徴」と「くちばしの使い方」、「えさ」を関係付けて読み、「なぜくちばしは、するどくどがっていないといけないのか」とらえなおしたことをまとめる。そして、自分の意見や考え、感想を書く。



【 図1 説明的な文章の場合 】

次に、文学的な文章の場合を説明する。まず、「おむすびは、どんな速さで転がったのか」の問いを解決するのにおむすびの転がる様子が分かる叙述に着目し、必要な情報「ころころりんかけだした」「まてまてまて」「すつとんとんととびこんだ」を取り出して、内容を把握する。次に、取り出した情報を関係付けて解釈した、「おじいさんが追いつけないくらいの走るような速さでおむすびが転がっている」「おじいさんが一生懸命おむすびを追いかけている」といった場面の様子をまとめる。そして考えや意見、感想を書く。



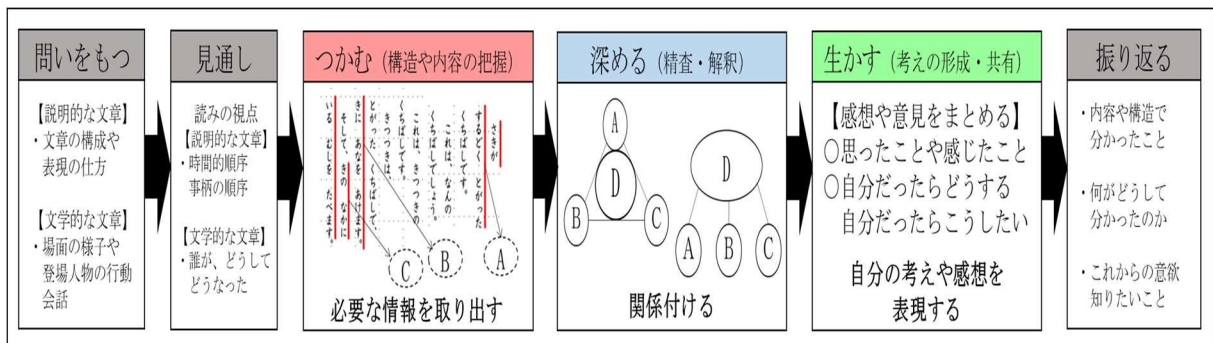
【 図2 文学的な文章の場合 】

(2) 「進んで読みの力を身につける」とは

自分で読みの問いをもち、見通しを立て「つかむ」「深める」「生かす」を繰り返して振り返りを行い、意欲的に読みの力を身に付けていくことである。

読みの力は、人から与えられるのではなく、「自分から読みたい。解決したい」と自ら意欲をもって説明的な文章や文学的な文章と出会い、自分で読みの力を身に付けていくことが大切である。

「読みの問い」とは、説明的な文章の場合、「何が書かれているのか。」「なぜそうなるのか。」「といった文章の構成や表現の仕方に対する問いである。文学的な文章の場合、「このとき、どんな気持ちだろうか。」「なぜそうしたのか。」「といった登場人物の気持ち、行動の変化に対する問いのことである。「自ら読みの問いをもつ」とは、こういった問いを自分でもつということである。「見通しを立てる」とは、何がどのような順序で書かれているか、誰がどうしてどうなったといった読みの視点をもつことである。「振り返り」とは、自分だったらどうするかといった感想、自分の考えや意見を書いたり話したりすることである。



【 図3 進んで読みの力を身につけるまでの一連の流れ 】

(3) 「進んで読みの力を身につける子供」とは

問いや見通しをもって、説明的な文章や文学的な文章を進んで読み、自分の考えを表現する子供のことである。必要な情報を取り出し、取り出した情報（言葉や文・文章）を関係付けて自分の考えを表現することを繰り返しながら、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性等」を相互関連的に高めていく子供である。

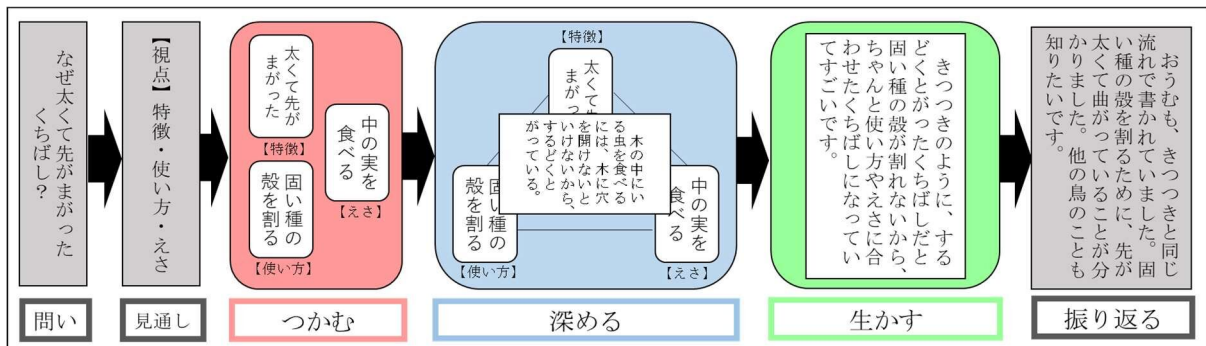
- 書かれている情報の意味を理解し、話や文章の中で適切に使うことができる子供
(知識及び技能)
- 大事な情報を取り出したり関係付けたりして自分の考えをもつことができる子供
(思考力・判断力・表現力)
- 言葉のよさを感じながら、思いや考えを伝え合おうとする子供
(学びに向かう力・人間性等)

具体的に第1学年、説明的な文章、単元「くちばし」を例に説明する。本時のねらいは、「くちばしの特徴」「問い」「答え」「くちばしの使い方」「えさ」の順序で書かれていることに気づき、内容の大体をとらえ、なぜその特徴のくちばしなのかについて考えることである。

教材文の「おうむ」の前半部分。「太くて先が曲がったくちばしです。これは、何のくちばしでしょう。」を提示し、前時の「先がするどくどとがったくちばし」と比較する。そこから、「どうしてきつつきとちがい、太くて先が曲がったくちばしなのか」と問いをもつ。

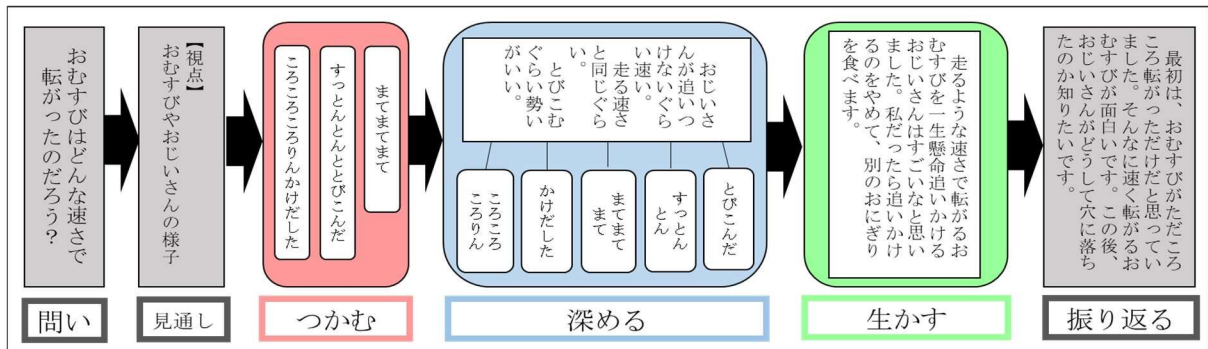
この問いを解決するために、くちばしの特徴「太くて先がまがったくちばし」の根拠となる叙述を、視点をもとに「固い種の殻を割る」(使い方)、「中の実を食べる」(えさ)を取り出し、内容をつかむ。

次に、くちばしの特徴と使い方「固い種を割らないといけない」、えさの食べ方「おうむは固い種の中に入っている実を食べる」を関係付けて内容の理解を深め、「なぜ太くて先がまがったくちばしなのか」とらえなおす。そして、「きつつきのように、するどくどとがったくちばしだと固い種の殻が割れないから、ちゃんと使い方やえさに合わせたくちばしになってすごいです。」と自分の考えや感想に生かす。それから、学習で分かったことやこれから知りたいことなどを振り返る。



【 図4 進んで読みの力を身につける子供の姿（説明的な文章の場合） 】

また、文学的な文章の場合の子供の姿は、第1学年の「おむすびころりん」を例にして説明する。本時の目標は、おむすびがどのように転がったのかを考え、おむすびを追いかけるおじいさんの心情を想像することがねらいである。



【 図5 進んで読みの力を身につける子供の姿（文学的な文章の場合） 】

このような姿を、本研究における「進んで読みの力を身につける」プロセスととらえるのである。このような過程において、読みの力を身につけて自分の考えを表現することにつながるには、

- ・ 情報を取り出す際に、言葉を連想させてイメージをもたせたり、動作化したりして内容を把握すること。
- ・ 言葉や段落同士を関係付ける際に、類似語と比較したり別の言葉に置き換えたりして、内容を解釈すること。

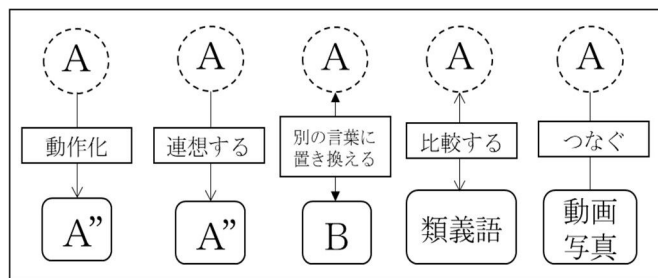
が重要である。それを「知る段階」と「深める段階」でそれぞれ位置づけることが大切である。段階ごとに位置づけることで、内容を把握したり解釈したりすることができるからである。そこで、本研究では、言葉を吟味する活動を位置づけて、研究を進めていった。

3 副主題の意味

(1) 「言葉を吟味する」とは

言葉を吟味するとは、言葉を動作化、言葉から連想、別の言葉に置き換え、他の言葉と比較、動画や写真の提示をし、言葉をとらえたり問い直したりすることである。

「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。つまり、「言葉をとらえたり問い直したりする」とは、言葉による見方・考え方を働かせるということである。



【 図6 言葉を吟味するとは 】

「動作化」とは、言葉から想像したことを動きで表し、言葉の意味を理解したり登場人物の心情を想像したりすること。「連想する」とは、言葉を聞いたり見たりしたときに、それらと関連のある言葉や事柄を思い浮かべること。「置き換える」とは、別の言葉と置き換えること。「比較する」とは、二つの言葉の類似点、相違点を見つけること。「つなぐ」とは、動画や写真を提示してイメージしていたことと結びつけること。

(2) 「言葉を吟味する活動」とは

言葉を吟味する活動とは、1時間の学習過程の中で構造や内容を把握したり、精査・解釈したりするために「つかむ」と「深める」段階に、言葉を動作化、言葉から連想、言葉を別の言葉に置き換え、他の言葉と比較、動画や写真を提示するといった操作活動を位置づけることである。

1時間の学習過程を「問いをもつ」「見通し」「つかむ」「深める」「生かす」の活動で構成する。この一連の学習過程の中の構造や内容を把握する「つかむ」段階と内容を解釈する「深める」段階のそれぞれに、言葉を吟味する活動を位置付ける。言葉を吟味する活動①と②は、それぞれ次の通りである。

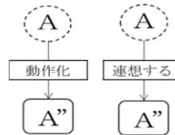
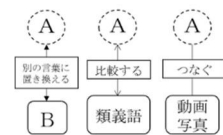
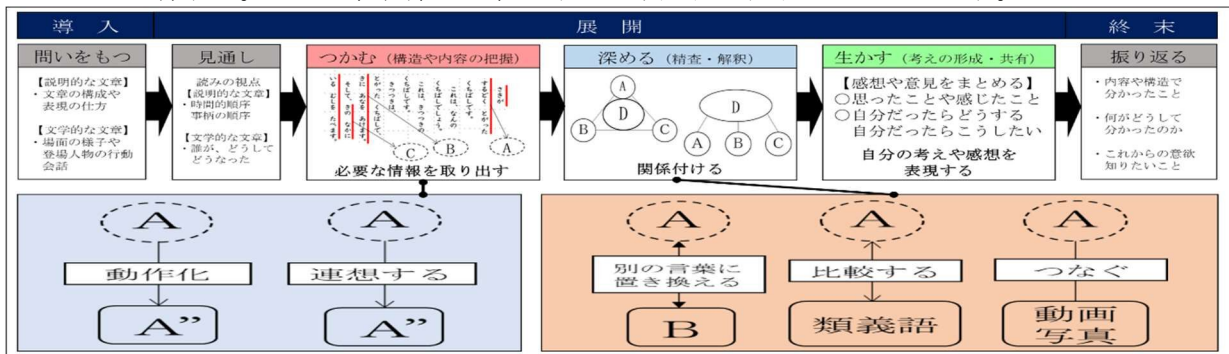
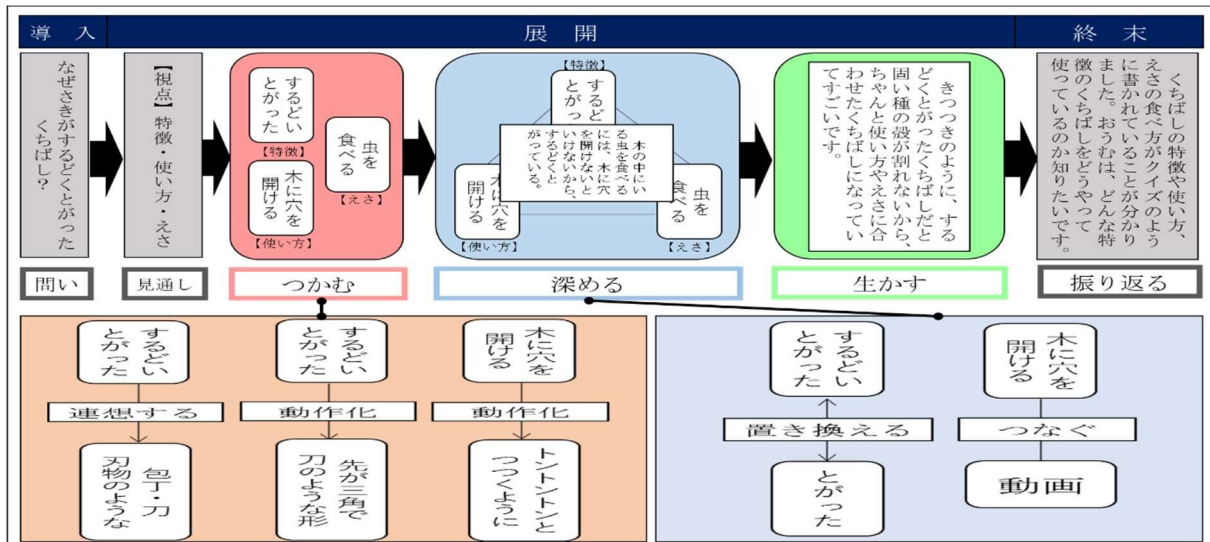
	言葉を吟味する活動①	言葉を吟味する活動②
目的	構造や内容を把握する	精査・解釈する
内容	読みの視点を明らかにする	言葉や文、文章、人物の行動をとらえなおす
方法	<ul style="list-style-type: none"> 言葉から連想する 動作化する 	<ul style="list-style-type: none"> 類義語と比較する 他の言葉に置き換える 写真や動画を提示する 

図8に示しているように、「つかむ段階」と「深める段階」に言葉を吟味する活動を位置づける。「つかむ段階」では、読みの視点を明らかにして情報を取り出し、言葉から連想したり言葉を動作化したりして構造や内容の把握をする。「深める段階」では、取り出した情報を関係付けて内容を解釈するために、別の言葉に置き換えたり類義語と比較したり、また動画や写真を提示したりして、書かれていることや書かれていないことについて具体的に想像する。そして、言葉や文、文章や登場人物の行動をとらえなおす。



【 図7 言葉を吟味する活動とは 】

説明的な文章「くちばし」において、言葉を吟味する活動について説明する。つかむ段階において「するどくとがったくちばし」(くちばしの特徴)「木に穴をあける」(くちばしの使い方)「中にいる虫を食べる」(えさ)の情報を取り出す。「木に穴を開ける」をトントントンといった動作で表現させたり木に穴を開ける道具を連想させたりして、何がどのように書かれているか把握する。そして、【くちばしの特徴】、【くちばしの使い方】、【えさ】を関係付けていく。その時に「するどくとがったくちばし」を「とがったくちばし」に置き換えて、なぜするどくないといけないのか考えさせる。また、実際にきつつきが木に穴を開けている動画を提示し、「木の中にいる虫を食べるために木に穴を開ける」といった役目があるから「するどくとがったくちばし」であることをとらえなおす。



【 図8 説明的な文章における言葉を吟味する活動とは 】

4 研究の目標

国語科の「読むこと（説明的な文章、文学的な文章）」の学習指導において、言葉を吟味する活動の在り方を究明し、進んで読みの力を育てる指導方法を明らかにする。

5 研究の仮説

第1学年「読むこと」の学習指導において、「言葉を吟味する活動」を通し、以下の点から授業の手立てを講じれば、言葉にこだわり表現する子供を育てることができるであろう。

- 着眼1…表現をゴールとした単元の構成
- 着眼2…自分の力に合わせて選択できる学習ノートの工夫
- 着眼3…構造や内容の把握や内容の解釈をするための「発問」の工夫

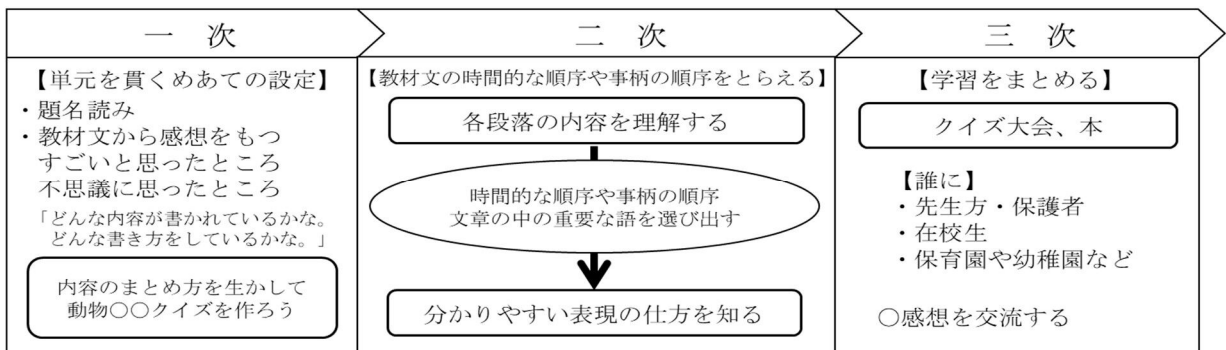
6 研究の内容

言葉を吟味する活動を通して、進んで読みの力を育てる子供を育てるために、以下の視点から指導方法を工夫する。

(1) 表現をゴールとした単元構成の工夫

【説明的な文章】

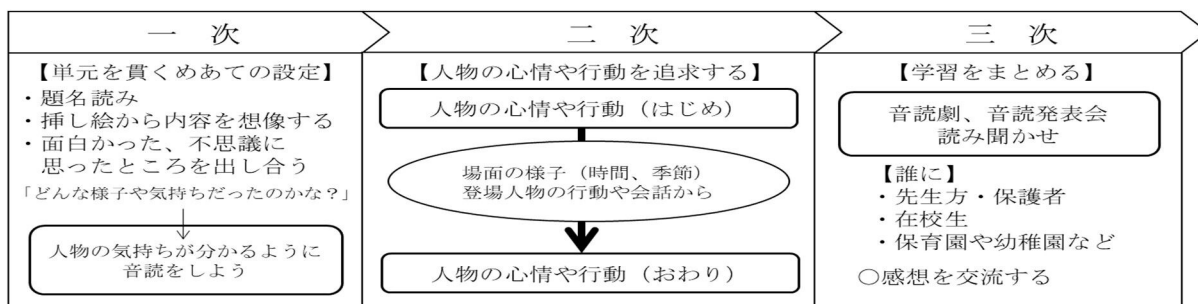
単元を通して、「考えを作って伝える」ことをめざすめあてを設定し、読みを深めていく。



【 図9 説明的な文章の単元構成 】

【文学的な文章】

単元を通して、「人物の心情や場面が分かるように表現をする」ことをめざすめあてを設定し、読みを深めていく。

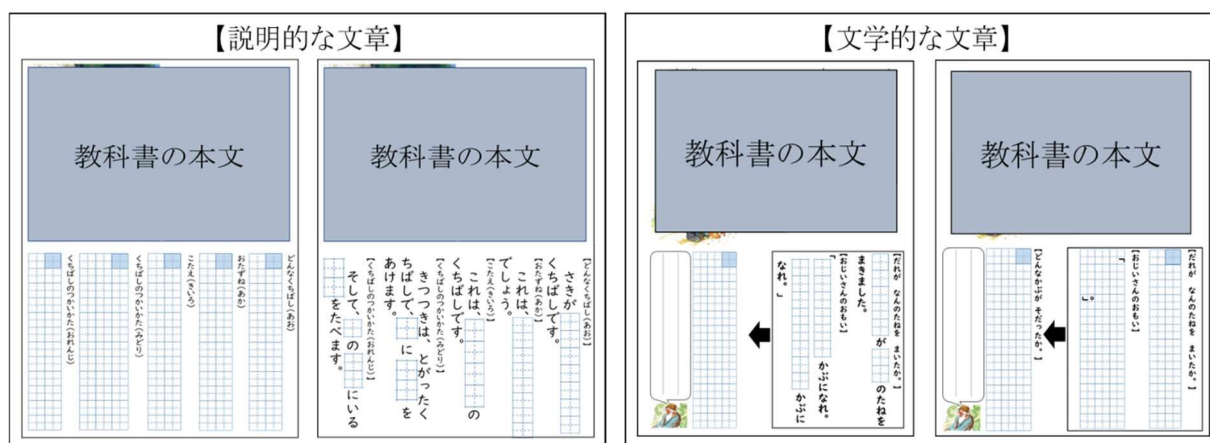


【 図10 文学的な文章の単元構成 】

ここでいう「表現」とは、自分の考えをつかって伝えるのではなく、説明的な文章であれば、クイズ大会や本を作ること。文学的な文章であれば、音読発表会や読み聞かせといった単元の初めに立てる単元のめあてのことをいう。

(2) 自分の力に合わせて選択できる学習ノートの工夫

自分の力に応じて、学習ノートを選択できるようにする。読みの視点をもとに叙述を全て抜き出すものと、重要な語や文だけを抜き出すものの2パターンを用意する。



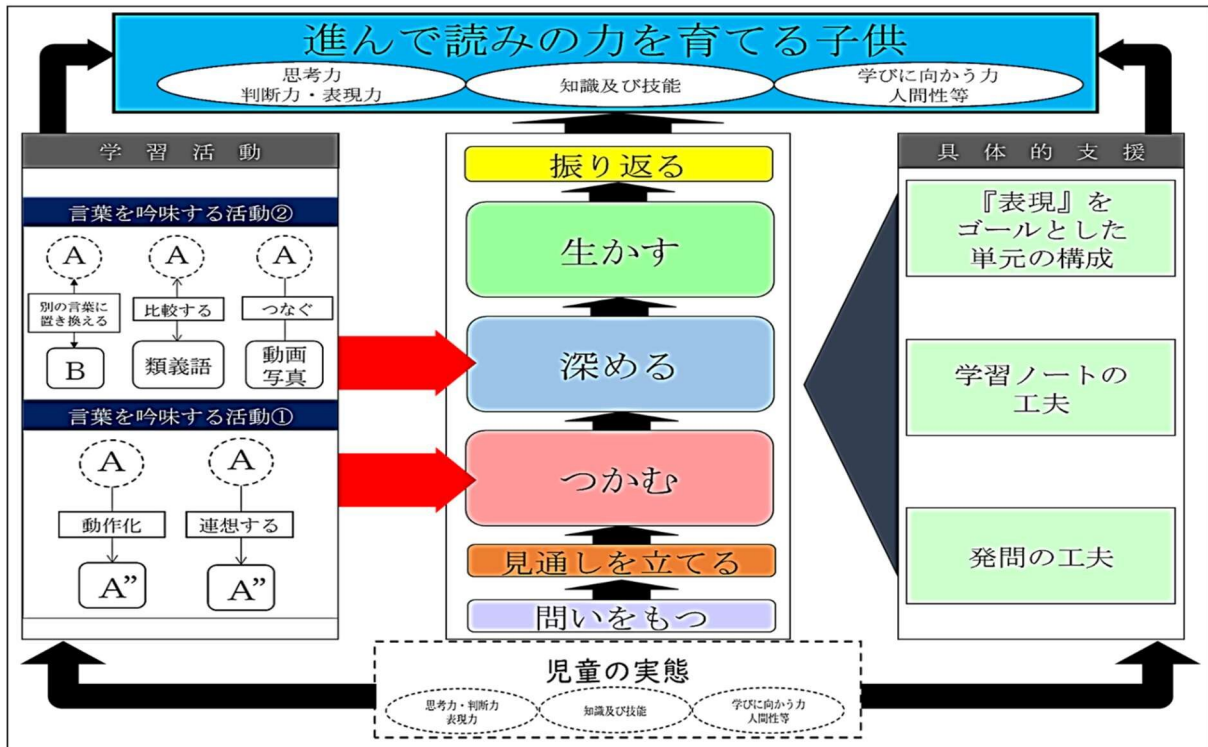
【 図11 学習ノートの例 】

(3) 構造と内容を把握したり解釈したりするための「発問」の工夫

問いの解決に必要な情報を取り出して構造と内容を把握したり、情報を関係付けて内容を解釈するそれぞれの活動において発問を工夫し、自分の考えを表現することができるようにする。

言葉を吟味する活動①	言葉を吟味する活動②
<p>【 構造や内容を把握する 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇と聞いて何を思い浮かべますか。」 ・「〇〇とはどんな形をしていますか。」 ・「〇〇と似ているものは何がありますか。」 ・「〇〇と言えば何がありますか。」 ・「〇〇を手で表してみましよう。」 ・「〇〇に合わせて体を動かしてみましよう。」 ・「〇〇は、どんな時に使いますか。」 	<p>【 精査・解釈する 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇と〇〇は同じですか。」 ・「何が違いますか。」 ・「どうして〇〇ではなく△△なのでしょう。」 ・「〇と△はどんな関係がありますか。」 ・「何のために〇〇でしょう。」 ・「〇〇からどんな様子や気持ちが分かりますか。」

7 全体構想図



【 図12 全体構想図 】

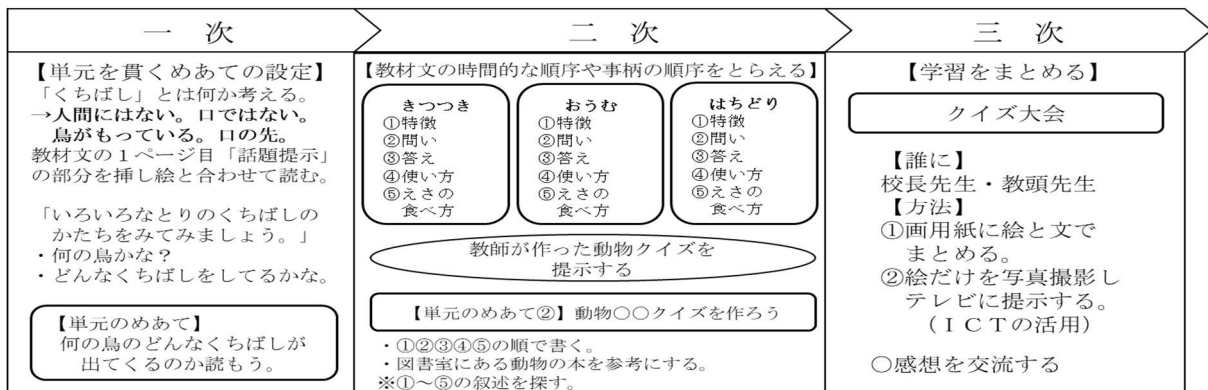
8 研究の実際

【実践事例1】令和4年 6月実施 第1学年 単元 「くちばし」説明的な文章

(1) 目標

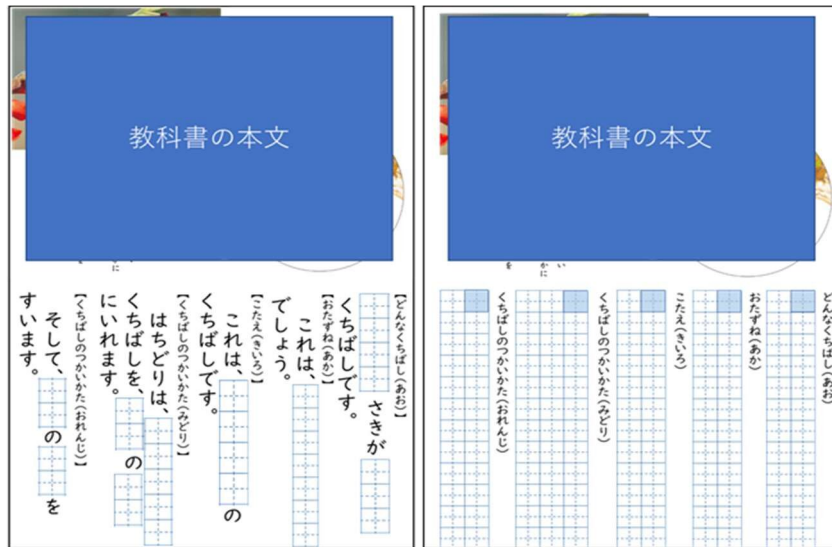
- 「きつつき」「おうむ」「はちどり」のくちばしについて、どんな順序で何が書かれているのかを考えながら内容の大体をとらえ、思ったことや気付いたことを話し合おうとする態度を育てる。
- 主語と述語の関係に着目して、それぞれの鳥によってくちばしの特徴や使い方、食べるものが違うことを説明することができる。
- 「くちばしの特徴」「くちばしの使い方」「何を食べるか(えさ)」といった視点を明らかにして叙述を取り出したり、叙述と叙述を関係付けたりして内容を理解することができるようにする。

(2) 単元の構成



【 図13 説明的な文章「くちばし」の単元構成 】

(3) 学習ノートの工夫



【 図14 学習ノートの工夫 】

(4) 授業の実際と考察

■ 4/8時：はちどりのくちばしの特徴について読み取る。 ■

〈本時のねらい〉

「くちばしの特徴」「使い方」「何を食べるか(えさ)」を関係付けて、はちどりのくちばしがなぜ太くて先が曲がっているのかを読み取ることができる。

【問いをもつ】

まず、はちどりの前半部分「ほそくて、ながくのびたくちばしです。これは、何のくちばしでしょう。」までを読み、何の鳥のくちばしか想像した後に、「これはきつつきのくちばしです。」答えを提示する。そこで、前時に学習した「太くて先がまがったくちばし」と比較し、「なぜはちどりは、ほそくてながくのびたくちばしをしているのか」という問いをもった。

【見通しを立てる】

問いの解決に向けて、「くちばしの特徴」「使い方」「何を食べるか(えさ)」といった読みの視点をもった。

【つかむ】

読みの視点をもとに、叙述から必要な情報を取り出した。(写真1)何がどのような順序で書かれているか確認した。そして、言葉を吟味する活動①を行った。「ほそながい」「はなのなかにいれる」「はなのみつをすう」を吟味する。資料1で示すように、言葉から連想、動作化をさせた。「細長いとは、どんな形ですか。手で表してみましよう。」と発問した。(図15)すると子供たちは、細くて長いを表す動きをしていた。

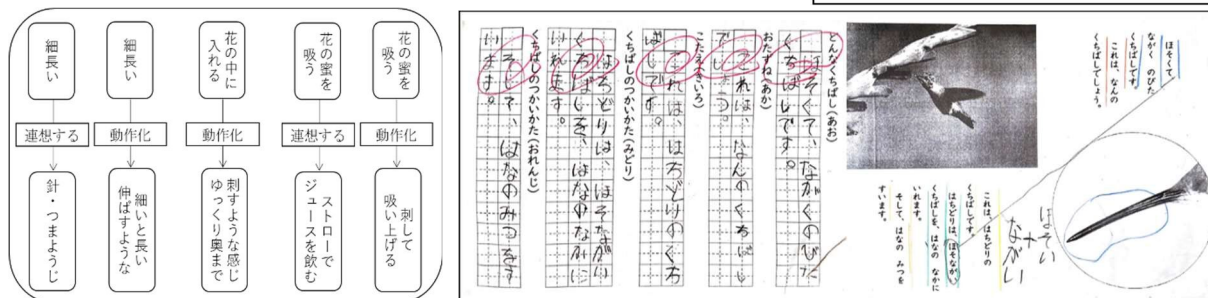
- | | |
|----|---|
| T1 | 「細長い」と聞いて何を思い浮かべますか。 |
| C1 | <u>布を縫うときに使う、針みたいです。</u> |
| C2 | <u>つまようじみたいです。</u> |
| T2 | 「細長い」を手で表してみてください。
横に引っ張るような仕事の人が多いですね。ひもを伸ばしているようですね。 |
| T3 | 「細長い」とは、 <u>どんな形のことでしょう。</u> |
| C3 | <u>細くて長い形のもです。</u> |
| T4 | つまり「細長い」とは、「細い」と「長い」を合わせて、細くて長いという意味ですね。 |
| T5 | では、「花の中に入れる」と「花の蜜を吸う」を動きで表してみましよう。 |
| C4 | ～言葉に合わせた動きをする～ |
| T6 | <u>細くて長いもので、吸うときに使う道具といえば、何がありますか。</u> |
| C5 | ストローがあります。 |
| C6 | <u>ストローでジュースを飲むときに似ています。</u> |
| T7 | 確かにそうですね。「花の蜜を吸う」とは、刺して吸い上げることなので、くちばしがストローのようになっているんですね。 |
| T8 | 「細長くくちばし」とは、 <u>この写真のどのことですか。</u> |
| C7 | ～赤鉛筆で印を入れる～
「これが細長くくちばしです」と言う |

【 図15 教師と子供のやりとり 】

次に、「細長くて吸うために使う道具」を思い浮かべさせて、身近なものをつなげた。子供たちは、すぐに「ストロー」と発言し、くちばしが飲み物を吸い上げるための役割を確認した。言葉を吟味することで、子ども達が言葉から具体的に想像し、どんな順序で何が書かれているのか把握することができた。(図16)



【写真1 叙述から情報を取り出す子供の姿】



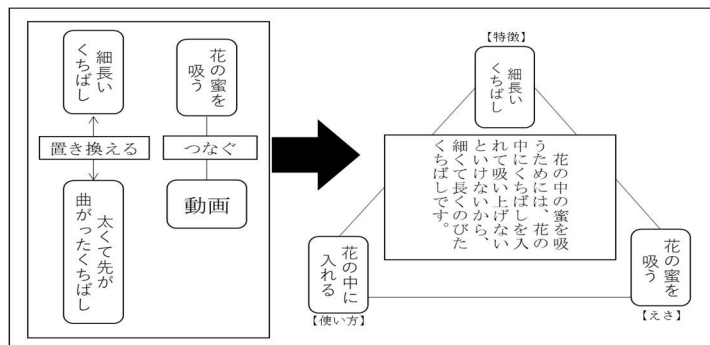
【 図16 言葉を吟味する活動①と子供のノート 】

【深める】

子ども達は、つかむ段階で取り出した情報「くちばしの特徴」「使い方」「何を食べるか(えさ)」を関係付けながら、なぜ細くて長いくちばしなのか、問いに対する答えを考えていった。その際に、言葉を吟味する活動②(図18)を行った。「細くて長いくちばし」の言葉をとらえなおすために、細くて長いくちばしを「先がすどくどがったくちばし」に置き換えて、「なぜこのくちばしではいけないのか」を考えさせた。この発問に対して、子ども達は、「花の蜜を吸えないから」や「花の中にくちばしを入れられない」など、くちばしの使い方やえさをつなげながら考えを述べていた。(図17)さらに、写真2のように、はちどりが蜜を吸う動画を見ることで、役目があるから細くて長いくちばしになっていると、問いの答えを導き出していた。

- T9 はちどりのえさは、何ですか。
- C8 はちどりは、花の蜜を吸います。
- T10 花の蜜を吸うためにどうするのですか。
- C9 くちばしを花の中に入れます。
- T11 だから、はちどりのくちばしは、どんな特徴ですか。
- C10 細くて長くのびたくちばしをしています。
- T12 少し前に学習した「きつつき」のくちばしと形が似ているようですが、「すどくどがったくちばし」でもいいですよ。
- C11 それは、ダメです。
- T13 どうしてダメなのですか。
- C12 だって、先がすどくどがったくちばしだと花の中に入りません。
- C13 それに、先がすどくどがっていたら、花の中にくちばしを入れたときに破れてしまうかもしれません。そしたら、蜜が吸えません。
- T14 そうですね。確かに、花の中にくちばしを入れることができず、蜜が吸えませんね。では、実際にはちどりが蜜を吸う様子を動画で見てみましょう。
- T15 どうでしたか。「すどくどがったくちばしは、どんな役目がありますか。」
- C14 すごかったです。やっぱり、細長いくちばしじゃないと、花の中に入れることができないから、細長いくちばしだと思います。

【 図17 教師と子供のやりとり】



【 図18 言葉を吟味する活動②】



【写真2 はちどりの動画を見る子供の姿】

【生かす】

子ども達は、解釈したことをもとに自分の考えや感想をまとめた。「はちどりのくちばしについてどう思いましたか。」という問いに対して、解釈して分かったことをもとに考えの根拠となる叙述を示しながら、自分の考えをまとめることができていた。(図19)

【A児】	に く ち ば し と は な の な か に い て 、 す ご か っ た で す。
【B児】	が い く ち ば し を は な に い れ て 、 み つ を す う の で す こ い で す。

【 図19 子供の考え 】

【振り返る】

今日の学習で分かったことやもっと知りたいことを振り返った。ペアで話した後全体で交流した。「おうむのときと、同じ順番で書かれていました。答えにくちばしの使い方や何のえさを食べるのかを書いていたので、分かりやすかったです。」や「他の動物のことも知りたいです。早くクイズを作って、みんなに出したいです。」と学習の振り返りを行うことができていた。内容や構造のことで分かったことをまとめたりこれからの意欲をもったりすることができた。

〈考察〉

つかむ段階において、情報を取り出し何がどのような順序で書かれているか、構造や内容を把握することができたのは、読みの視点を明らかにしたからである。その際に、「どんな形をしていますか。手で表してみましよう。」といった様子を思考させる発問や「細長くて吸うときに使う道具は、何がありますか。」と連想させるような発問を行ったことで、子供たちが言葉からイメージをふくらませることができ、内容の理解につながったので発問の工夫が有効であった。

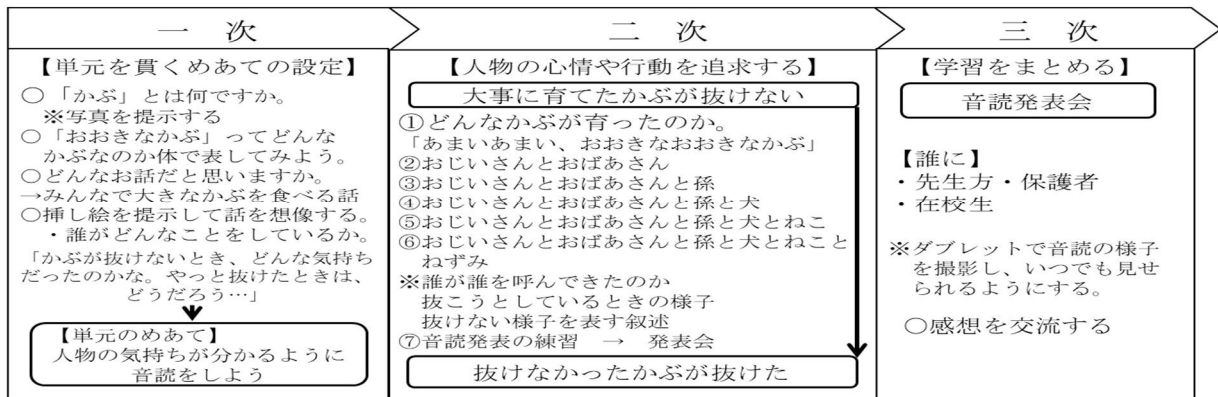
また、深める段階において、読みの視点を関係付けて自分の考えをまとめることができたのは、関係付けるときにくちばしの特徴を別の言葉に置き換えたり、動画を視聴したりしたからである。はじめは、「細くて長いくちばしをしててすごいな。おうむのくちばしとは、特徴が違うな。」といった考えが「えさを食べるためにこんな使い方をするから、絶対にこの特徴のくちばしじゃないといけない」ととらえなおすことができた。そして、振り返りにおいて「他の動物のことも知りたい。早くクイズを作りたい。」と表現活動を楽しみにしている姿も見られた。子供たちの中に「クイズを作成する」といった単元のめあてがあるからこそ、このような姿が見られた。よって、表現をゴールとした単元構成は、有効であったといえる。

【実践事例2】令和4年 6月実施 第1学年 単元 「おおきなかぶ」文学的な文章

(1) 目標

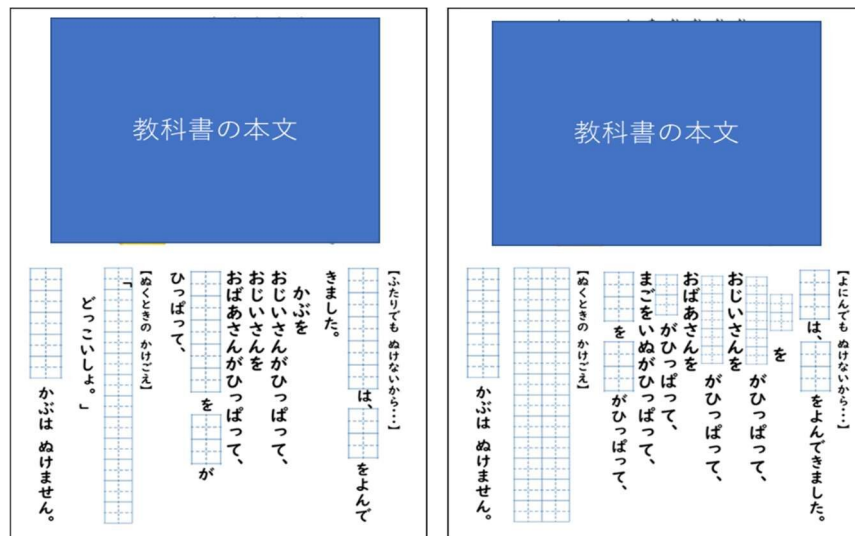
- 「おおきなかぶ」の内容や表現の工夫に関心をもち、かぶをぬくために誰が誰を呼んできたのか、人数が増えていくことに着目しながら、かぶを抜くときの様子や人物の気持ち、心に残ったことを話し合おうとする態度を育てる。
- 登場人物の行動や場面の様子が分かる文から根拠となる叙述を抜き出し、情報を関係付けながら、かぶを抜くときの様子や人物の気持ちを説明することができる。
- 登場人物の気持ちや場面の様子が分かるように、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。

(2) 単元の構成



【 図 2 0 文学的な文章「おおきなかぶ」の単元構成 】

(3) 学習ノートの工夫



【 図 2 1 学習ノートの工夫 】

(4) 授業の実際と考察

■ 5 / 8 時 : ねこが増えて 5 人でかぶを抜く様子を読み取る。 ■

〈本時のねらい〉

おじいさん、おばあさん、まご、いぬ、ねこの 5 人でかぶを抜いているときの様子や気持ちを想像し、様子や気持ちが伝わるように音読することができる。

【問いをもつ】

まず、「犬が来て 4 人になってもかぶがぬけなかった」ことを振り返り、まだまだ抜けないかぶを抜くためにどうするのか想像する。場面 7 の初めの 1 文「いぬは、ねこをよんできました。」を読み、5 人になったことを確認する。かぶは抜けたのか、どんな様子だったのか話しながら「5 人でかぶを抜く様子分かるように音読をしよう」という問いをもった。

【見通しを立てる】

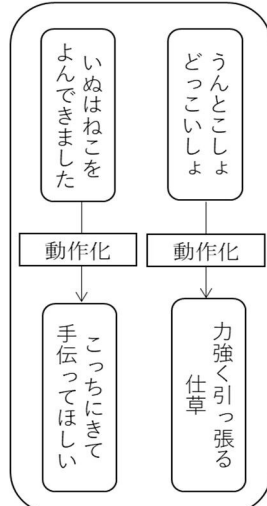
問いを解決するために「誰が誰を呼んできたのか」「抜くときの様子」「かぶの様子」といった読みの視点をもった。

【つかむ】

読みの視点をもとに、叙述から「犬はねこを呼んできました」、抜くときの様子が分かるかけ声「うんとこしょ、どっこいしょ」とかぶの様子が分かる叙述「なかなかかぶはぬけません」を取り出した。(図22)

主語と述語に気をつけて、誰が誰を呼んできたのかを確認する。そして、言葉を吟味する活動①(図24)を行った。ここでは、動作化を行った。まず、「犬が

ねこを呼んできました。」という叙述から、犬とねこの役に分かれて、犬がねこを呼ぶときに何と言ったのかを考えた。次に「うんとこしょ、どっこいしょ」を吟味する。動作化した後に、「どんな読み方をしましたか。」と発問した。(図23)すると「大きな声で力強く読んだ。」「一生懸命さが伝わるように読んだ。」とこたえていた。さら



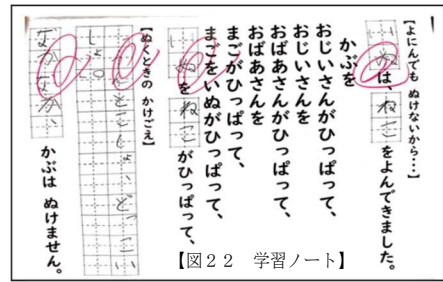
【 図24 言葉を吟味する活動① 】

に「前の場面と同じかけ声だけど、何か違うのですか。」と発問した。すると、「人数が5人に増えているから、声の大きさが違うよ。」と話の内容を把握することができた。

【深める】

子供たちは、「犬がねこを呼びました」「うんとこしょ、どっこいしょ」と「なかなかかぶは抜けません」の情報を関係付けながら、問いに対する答えを考えていった。その際に、言葉を吟味する活動②(図26)を行った。「なかなか」と「まだまだ」を比較して、「2つの言葉は何が違いますか。」と発問した。(図25)子供たちは、「まだまだは、全然抜けそうにないけど、なかなかは少し軽くなったような気がする。」と言った。そこで、「なかなかはどんな時に使いますか。」とたずねると、「なかなかできない」「なかなか難しい」を挙げた。そこから、かぶ

が抜けそうにない様子に加えて、「ねこにも手伝ってほしい。一人でも多い人数で抜きたい。」「みんなで一緒に力を合わせても抜けない。」という様子を具体的に想像できた。そして、「早くかぶを抜きたい。みんなで力を合わせて頑張りたい。どうしても抜きたいけど抜けるか少し心配な気持ちもある。」と言言葉をとらえなおし、内容を解釈することができた。



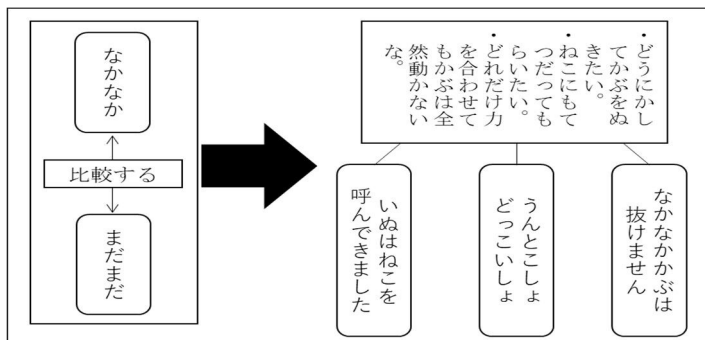
【図22 学習ノート】

- T16 犬は、誰を呼んできましたか。
- C15 ねこです。
- T17 犬がねこを呼ぶとき、何と言って呼んだと思いますか。ペアで役に分かれてやりましょう。
- C16 ~ペアで動きをつけてやる~
- T18 ペアでやった事を発表して下さい。
- C17 ねえねえ、ねこさん。かぶが中々抜けな
いから、手伝ってほしい。一緒に来て。
- C18 いいよ。私が行ったら抜けるかな。
- T19 では、ねこもやってきましたが、どんなかけ声を言って抜いたのかな。ちょっと言ってみましょう。
- C19 うんとこしょ、どっこいしょ
- C20 今、どのように「うんとこしょ、どっこいしょ」を読みましたか。
- C21 大きな声で力強く読みました。
- C22 絶対に抜きたいと思いを込めて、一生懸命読みました。
- T20 前の場面とかけ声と同じですが、何が違うのですか。
- C23 人数が一人増えています。だから、声の大きさが変わります。
- C24 二人増えるから、かけ声が大きくなると思います。

【 図23 教師と子供のやりとり 】

- T21 犬が手伝ったときは、「まだまだかぶは抜けません。」でしたね。今回は、「なかなか抜けません」です。まだまだとなかなか、何が違いますか。
- C25 「まだまだ」よりも「なかなか」の方が抜けそうな感じがします。
- C26 少し軽くなったような気がする。
- T22 「なかなか」は、どんなときに使いますか。
- C27 「なかなかできない」とか「なかなか難しい」って言う。
- C28 だから、ねこにも手伝ってほしかったのかな。
- C29 一人でも多い人数がいいよね。
- T23 みんなは、どんな気持ちだったのでしょうか。
- C30 どうしてもかぶを抜きたい。ねこさんを呼んできたのに抜けなくて残念。
- C31 抜きたいけど、このかぶ抜けるのかなと少し心配です。

【 図25 教師と子供のやりとり 】



【写真3 体を動かしながら音読する姿】

【 図26 言葉を吟味する活動② 】

【生かす】

子供たちは、解釈したことをもとに自分の考えや感想をまとめた。(図27)「かぶを抜く5人の中に自分がいたらどう思いますか。」という発問に対して、解釈して分かったことをもとに、自分の感想をまとめることができていた。

【A児】 みんなで力を合わせます。早くかぶを抜きたいからです。

【B児】 いつ抜けるのかなとドキドキします。抜けないのもうやめてしまいかもしれない。

【 図27 児童の考え 】

【振り返る】

今日の学習で分かったことやもっと知りたいことを振り返った。ペアで話した後全体で交流した。「人数が増えてもおおきなかぶは、抜けないことが分かった。みんな頑張っていてすごいなと思いました。」「5人になっても抜けないので、とてもおおきなかぶだと思いました。早くかぶが抜けてほしいです。」「ねこにも手伝ってほしいぐらいかぶが抜きたいと分かった。おじいさんは、最初からずっと抜こうとしているからすごいです。」と学習の振り返りをする事ができていた。そして、上手に音読することができました。(写真3)

〈考察〉

つかむ段階で、実際に動きを入れて音読をすることで、気持ちが想像しやすく、その時どんな様子だったのかを具体的に考えることができたため、動作化したことが有効であった。その際に、「前の場面とかけ声が同じですが、何か違うのですか。」と発問した。そうすることで、「4人から5人に変化している」と叙述をもとに根拠を考えた。また、深める段階で情報を関係付ける際に、「まだまだとなかなかの言葉の何が違うのか」「そこからどんな思いが伝わるのか」といった発問をすることで、叙述には書かれていない心情や場面の様子を立ち止まって考えることができたので、発問を工夫することは、有効であった。

【実践事例3】令和4年 6月実施 第1学年 単元 「おむすびころりん」文学的な文章

(1) 目標

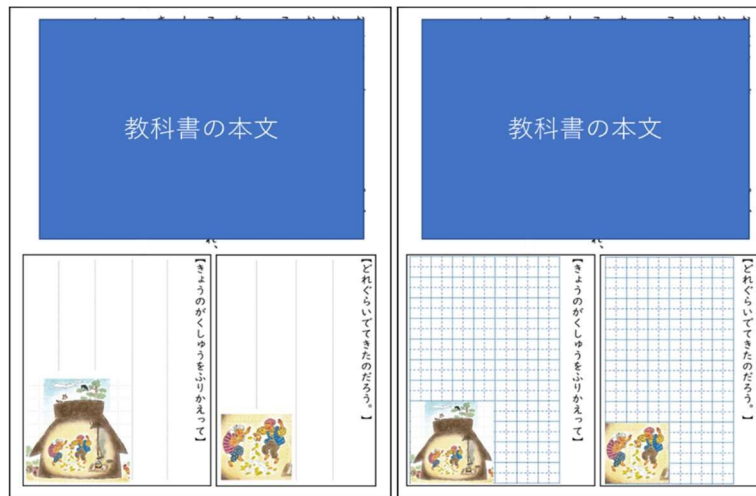
- 「おむすびころりん」の内容や表現の工夫に関心をもち、人物の行動や場面の様子に着目しながらおむすびを追いかけるとき、ねずみと出会ったとき、家に帰ったときのおじいさんの気持ちや場面の様子、心に残ったことを話し合おうとする態度を育てる。
- 登場人物の行動や場面の様子が分かる文から根拠となる叙述を抜き出し、情報を関係付けながら、おむすびを追いかけるときや穴の中にいるとき、家に帰ってきてからの人物の気持ちや様子を説明することができる。
- 登場人物の気持ちが分かるように、語のまとまりや言葉の響きに気をつけながら、リズムよく音読することができる。

(2) 単元の構成

一 次	二 次	三 次
<p>【単元を貫くめあての設定】 題名読みをする。 「おむすび」って何ですか。 →おにぎりの別の言い方 ○おむすびがどうなるのか。 →おむすびが転がる話 ・転がるとどんな事が起こったの だろう…いいこと？悪いこと？</p> <p>【単元のめあて】 ○気持ちや様子が分かるよう に読み聞かせをし、昔話の 面白いところを伝えよう。</p>	<p>【人物の心情や行動を追求する】</p> <p>おむすびが穴の中に落ちる</p> <p>①おむすびの転がる速さ ②おむすびをわざわざ落とした理由 ③穴の中で起きたこと ④家に帰って起きたこと</p> <p>おじいさんとおばあさんは いつまでも幸せにくらした</p> <p>⑤昔話を選んで読み聞かせの練習</p>	<p>【学習をまとめる】</p> <p>読み聞かせ会</p> <p>○グループを作って 友達に聞かせる。</p> <p>○感想を交流する ・内容（話の展開） ・構造（繰り返し） などの視点から</p>

【 図 2 8 文学的な文章「おむすびころりん」の単元構成 】

(3) 学習ノートの工夫



【 図 2 9 学習ノートの工夫 】

(4) 授業の実際と考察

■ 5 / 6 時：おじいさんが帰ってきてからの 2 人の気持ちを読み取る。 ■

〈本時のねらい〉

おじいさんがネズミの家から帰ってきてからのおじいさんとおばあさんの様子や気持ちを想像し、様子や気持ちが伝わるようにリズムよく音読することができる。

【問いをもつ】

場面の 4 の前半部分「おれいのこづちをてにもって、おうちにかえっておばあさんと、おどったおどったすつとんとん、こづちをふりふりすつとんとん」のところまで読み、お土産をもって家に帰ったことを確認する。踊っている、こづちを振っているおじいさんとおばあさんの気持ちを想像させて、「おじいさんとおばあさんは、どうして嬉しかったのだろうか。」という問いをもつ。

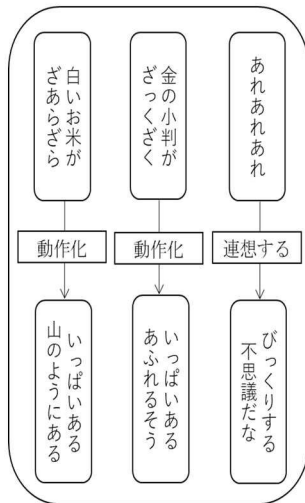
【見通しを立てる】

問いを解決するために、「おじいさんとおばあさんの気持ちが分かる」「こづちを振ったときの様子」といった読みの視点をもつ。

【つかむ】

読みの視点をもとに、叙述から「あれあれあれ」「しろいおこめがざあらざら」「きんのこぼんがざっくざく」を取り出した。ここで、言葉を吟味する活動を①(図30)を行った。「ざあらざら」と「ざっくざく」という言葉を動作化した。写真4のように子供たちは、手を大きく回して、たくさんある様子を表した。「ざっくざくやざあらざらは、どんなことを思い浮かべますか。」と発問して、「いっぱい」や

「たくさん」を表す言葉であると確認する。次に、「お米や金の小判はどれだけ出てきたと思いますか。」と発問し(図31)、自分の考えを書かせた。すると、「たくさん出てきたと思う。だって、ざあらざら、ざっくざくと書いているからです。」や「100億出てきたと思う。だって、こづちをふるたびにでくると書いているからです。」など、根拠を明らかにしていた。(図32)そして、「どんなときにあれ?と使うかな。」と発問すると、「びっくりしたとき」「何だろうと不思議に思ったとき」「何か



【 図30 言葉を吟味する活動① 】

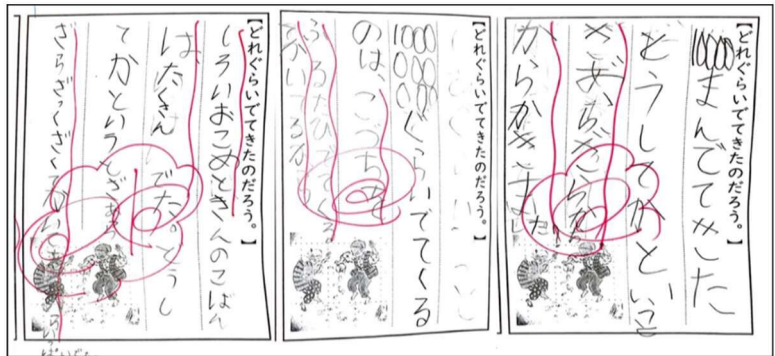


【写真4 動作化する子供の姿】

- T24 「ざあらざら」と「ざっくざく」を動きで表してみましょう。
- C32 ~いろいろ動く~
- T25 「ざっくざく」や「ざあらざら」と聞いてどんなことを思い浮かべますか。
- C32 いっぱいある、たくさんありそう。
- C33 何かこぼれそうな程いっぱい。
- C34 山のようにあふれそうなくらい。
- T26 お米や小判は、どれだけ出てきたと思いますか。
- C35 とにかくたくさん出てきた。
- C36 100億ぐらい出てきたと思う。だってざっくざくだから。
- T27 お米や小判がとにかくいっぱい出てきたことが想像できるね。みんなは、「あれ?」ってどんな時に使いますか。
- C37 びっくりしたときとか、不思議に思ったとき。
- C38 あれ?何だろう?って分からない時。
- T28 おじいさんやおばあさんは、お米や小判が出てくるのを見て、あれ?何だろう?って不思議に思ったりびっくりしたりしたことがわかりますね。

【 図31 教師と子供のやりとり 】

分からないとき」と考えた。お土産にももらったこづちを振ったらお米や小判が出てきたこと、それを見てびっくりしたことを把握できた。



【 図32 学習ノート 】

【深める】

子供たちは、「あれあれあれ」「しろいおこめがざあらざら」「きんのこぼんがざっくざく」の情報を関係付けながら、問いに対する答えを考えていった。その際に、言葉を吟味する活動②(図34)を行った。「ざあらざら」と「ざっくざく」を「いっぱい」に置き換える。そこで、「意味は同じなので、“いっぱい”に言葉を換えてもいいですね。」と発問し、ペアで話し合った。(図33)すると子供たちは、「ざっくざくの方があふれそうなくらい山のようにあるのが分かる。」「ざあらざらの方がいっぱいありそう。」と考えた。次に、「あれあれあれ」に着目し、「三回言わなくても一回“あれ”と言え方がいいと思うけど、どうし

〈考察〉

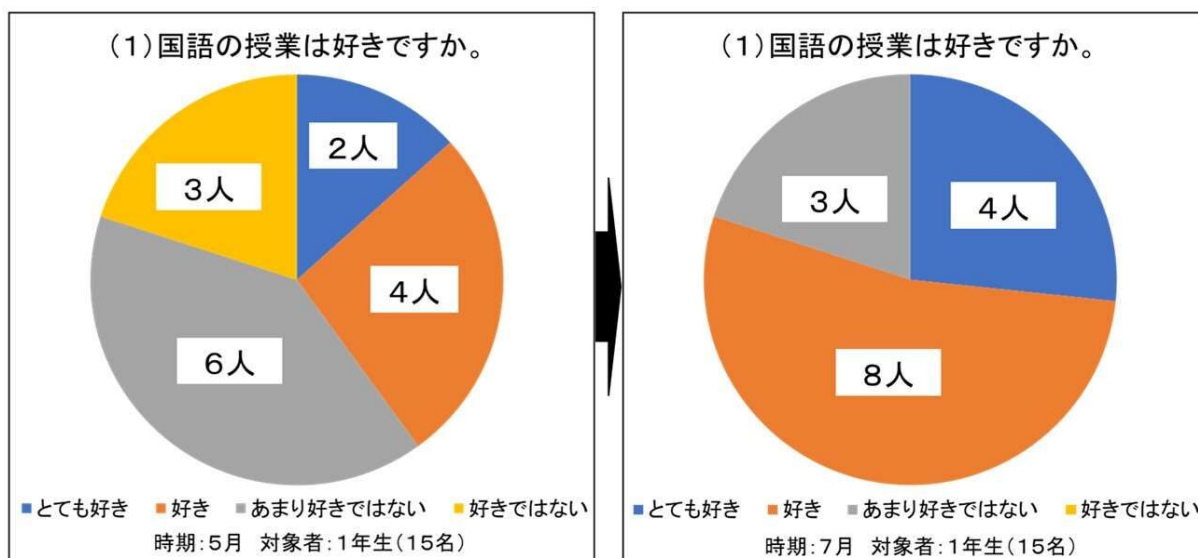
つかむ段階で、おじいさんやおばあさんがこづちを振ることで何が起きてどんな気持ちになったのか、内容を理解するために連想させる、動作化をうながす発問が有効であった。また、深める段階で情報を関係付ける際に、「なぜこの言葉ではいけないのか」「なぜ繰り返されているのか」と発問したことで、子供が思考を働かせて根拠を考えていたことから、発問が有効であった。また書く活動を増やすために、本実践では、線を引いて叙述を取り出し、学習ノートに考えをたくさん書けるようにした。自分に合ったノートを選択し、叙述をもとに考えを書く姿が図3 2や図3 6で見られたため、学習ノートの工夫は有効であった。

7 成果と課題

(1) 研究の成果

①つかむ段階と深める段階に位置づけた「言葉を吟味する活動」の有効性

実践1から3を終えて7月にアンケートを実施した。アンケートの結果は、次の通りである。5月は国語が好きな子が6名、好きではない子が9名でした。



【資料2 児童にとってアンケート結果（1学期調査分と比較）】

結果として、国語が好きな子が12名に増えた。このアンケートを取った際に、その理由をたずねた。それぞれ好きと答えた理由、好きではない理由は次の通りである。

【どうして好きなのですか。】

- ・お話を読むのが楽しかった。どんなお話かいつも分かった。
- ・言葉の意味をいっぱい考えて面白かった。
- ・体をいっぱい動かして楽しかった。
- ・動物〇〇クイズを作ってクイズ大会をしたのが楽しかった。クイズが作れてよかった。
- ・おおきなかぶの音読が楽しかった。一人ずつ増えていくのが面白かった。
- ・大きなかぶで言葉が変わっているところをすぐに見つけた。
- ・おじいさんの気持ちを考えたり、ねずみになりきったりするのが面白かった。
- ・面白い言葉をたくさん見つけた。発表できて嬉しかった。

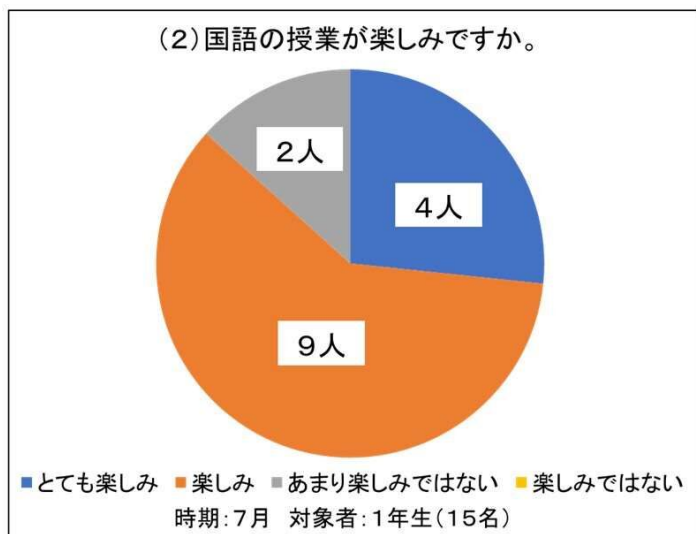
【どうして好きではないのですか。】

- ・書くのが難しかった。文が書けない。
- ・どれを書いていいのか分からなかった。
- ・どこを読んでいるのか分からなくなった。

このアンケートの結果から、内容や構造を理解できるようになっていることや言葉の意味をとらえていることが分かる。また、内容を分かった上で音読に取り組むため、人物の心情になりきったり場面の様子が伝わるように読もうとしたりと楽しく表現活動に取り組んでいる子供の姿が見られる。さらに、説明的な文章や文学的な文章を読み進めるにあたって、言葉に着目し、叙述をもとに考えを作ることができるようになっている。

そして今回、追跡調査を行い、「これからの国語の学習が楽しみですか。」とたずねた。理由として次のことが挙げられた。

- ・もっといろいろなお話を読んでみたい。
- ・登場人物の気持ちを考えたい。
- ・音読をたくさんしたい。
- ・いっぱい言葉見つけをしたい。
- ・文を書けるようになりたい。
- ・たくさん文を書きたい。
- ・また、クイズ大会をしたい。
- ・図鑑とか本をつくりたい。
- ・いろいろな言葉を知りたい。
- ・音読をみんなに聞かせたい。



【資料3 アンケート調査結果(追跡調査)】

このように子供たちが国語科の学習に対して意欲的になったのは、次のことから考えられる。

- 構造や内容を把握する際に、言葉を動作化したり連想させたりして言葉と意味とイメージをつなぎ、何がどのように書かれているか確認し、取り出した情報をきちんと把握した。
- 取り出した情報を関係付けて、書かれていることはもちろん、書かれていないことまで具体的に想像した。その際に、別の言葉に置き換えて考えたり類義語と比較したり、動画や写真を見たことで、より語や文、文章をとらえることにつながった。
- 分かったことや感じたことを自分の言葉でまとめ、みんなに伝えた。

これは、つかむ時と深める時に段階的に言葉を吟味する活動を位置づけたからこそ、子供たちが言葉を獲得し、表現することができるようになったといえる。

進んで読みの力を身につける子供を育てるために、言葉を吟味する活動を段階的に位置づけたことは、有効であったといえる。

(2) 研究の具体的な構想の有効性について

①表現をゴールとした単元の構成

以下、説明的な文章、文学的な文章の単元末に表現活動を楽しむ子供たちの姿である。

【くちばし（説明的な文章）】

写真6は、動物〇〇クイズを作って先生方にクイズを出している様子である。動物は、子供たちが興味関心のあるものから自分で選択し、「くちばし」で学習したことを生かしてクイズを作成した。このクイズ大会を子供たちは、待ちわびていた。「自分でクイズを作って出題したい」という単元のめあてを持っていたからこそ、子供たちは意欲的に読みを進めていった。



【 写真6 動物〇〇クイズ大会での子供たちの様子 】

【おおきなかぶ（文学的な文章）】

写真7は、音読発表会の様子である。登場人物の気持ちや場面の様子を声の大きさや強弱で表現している。単元の第一次で挿絵をもとに場面を想像し、教師の範読を聞いただけで「早く読みたい。何か体を動かしたくなってきた。」「音読を誰かに見せたい。タブレットで動画を撮ろう。」と大変意欲的であった。そのため毎時間、登場人物の気持ちや場面を進んで想像し、音読の仕方を考える姿が見られた。家庭での音読も張り切って行っていた。



【 写真7 おおきなかぶの音読発表会の子供たちの様子 】

【おむすびころりん（文学的な文章）】

写真8は、読み聞かせ会の様子である。グループで選んだ昔話の読み聞かせを行っている。単元の第一次で「他にも昔話を知っている。いろいろな昔話を読んでみたい。」と興味関心を示した。そこで、「昔話を読み聞かせしよう」という単元のめあてを立てた。読みを進めていくうちに、昔話の面白さを見つけるようになり、読書でも進んで昔話を読む姿が見られた。



【 写真8 読み聞かせ会の様子 】

以上のことから、どの学習においても子供たちは、意欲的に取り組んでいた。「何のために読むのか」単元のめあてを明確にし、そのめあてに向かっていくことが大切である。さらに単元のゴールを「表現」にしたことで、学んだことを発揮する場がきちんとあったため、子供たちは意欲を継続したまま、読みを進めていった。表現をゴールとした単元の構成は、有効であった。

②自分の力に合わせて選択できる学習ノートの工夫

学習ノートを工夫したわけは、次の3点である。

- ・どこに何を書けばいいか明らかにして、大事な言葉に着目させるため。
- ・書く習慣を少しずつ身に付けていくため。
- ・書く速さ、字の習得に差があっても全員が学習に参加できるようにするため。

アンケートの結果に、「どんなお話かいつも分かった。」「一人ずつ増えていくのが面白かった。」など、内容や構造をしっかり把握できている。これは、問いを解決するために叙述から情報を取り出せたからだと言える。学習ノートで読みの視点を明確にすることで、どこに何が書かれているか、誰がどうしたのかを把握し、内容を解釈することにつながったと考える。また、学習ノートを子供たち自身で自分の力に合わせて選択することで、誰一人として取り残さない、個別最適な学びであるといえる。全員が進んで読みの力を育てるために、学習ノートを工夫したことは、有効であった。

③構造や内容の把握や内容の解釈をするための「発問」の工夫

発問をする際に重視したことは、子供たちの思考が深まるかどうかである。言葉を吟味する活動を行う際に、「何が違うのか」「なぜこの言葉がいいのか」考えたいように発問を行うことを大事にして、発問計画を立てた。

アンケートの結果に、「言葉の意味をいっぱい考えて面白かった。」「面白い言葉をたくさん見つけた。発表できて嬉しかった。」とあった。言葉の意味を立ち止まって考え、「なぜだろう」「どんな形だろう」「ちがいは何かな」と思考することで、内容や構造の把握につながる。そして、読みの視点がつながったときに叙述には書かれていないことまで想像することができる。

このことから、つかむ段階と深める段階で言葉を吟味する活動を活発にするために、発問を工夫したことは、有効であったといえる。

(3) 課題

本研究では、言葉を吟味する活動をつかむ段階、深める段階に位置づけて、内容や構造の把握をしたり、言葉をとらえなおして精査・解釈したりすることによって、進んで読みの力を育てる子供を育てる国語科の学習指導について考えてきた。副主題をさらに有効に働かせるために、以下の課題が明らかになった。

- 内容を解釈して考えたことや感想をまとめる際に、何をどのように書けばいいのか書く手順を明らかにし、さらに進んで考えを表現できるようにする。
- 進んで読みの力を身につける上で、取り出した情報を関係付けるために効果的なICTの活用を考え、協働的に学ぶことができる交流活動の手順を明らかにする。

〈参考文献〉

- | | | | |
|--|-------------------|------|-------|
| 「小学校学習指導要領解説 国語編」 | 文部科学省 | 東洋館 | 平成30年 |
| 「思考ツールで国語の深い学び」 | 山本茂喜 | 東洋館 | 令和2年 |
| 「白石範孝の国語授業の教科書」 | 白石範孝 | 東洋館 | 令和2年 |
| 「最新の教材で最高の「言葉の力」を育む国語授業」 | 二瓶弘行 | 東洋館 | 平成27年 |
| 「二瓶弘行の「物語授業づくり」入門編」 | 二瓶弘行 | 文溪堂 | 平成25年 |
| 「見方・考え方 国語編」 | 中村和弘 | 東洋館 | 平成30年 |
| 「国語教育指導用語辞典 第三版」 | 田近洵一 | | |
| | 井上尚美 | 教育出版 | 平成19年 |
| 「深い学び」 | 田村学 | 東洋館 | 令和元年 |
| 「令和の日本型教育Q&A」 | 藤原光政 | 明治図書 | 令和4年 |
| 「考えるってこういうことか思考ツールの授業」 | 田村学 | 小学館 | 令和2年 |
| 「令和の日本型学校教育の再構築を目指して
～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～」 | | | |
| | 中央教育審議会答申 | | 令和3年 |
| 「学習指導要領の趣旨の実現に向けた
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」 | | | |
| | 文部科学省初等中等教育局教育課程課 | | 令和3年 |